

マイトーク MY TALK

第14号

発行：中央大学放送研究会OB会(会長/砂岡茂明)
住所：〒192-0351 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付
発行日：2013年(平成25年)5月

OB会の使命

OB会長 砂岡 茂明 (12期)



会員の皆様にはいかががお過ごしでしょうか。放研も昨年で創立60年を迎え、OB会員の高齢化も進んできました。

ここで、いま一度、OB会の使命について考えてみたいと思います。

会規則には、目的として会員相互の親睦、交流、情報交換、および現役会員との交流とあり、目的達成のための事業として、機関誌の発行、記念行事、慶弔、現役への支援、名簿の発行と定められています。

定められている事業は、いちおう実施してきていますが、機関紙発行回数・内容等は必ずしも充分とは言えず、目的を達成しているかどうか内心忸怩たるものがあります。

しかしながら、五〇周年での保存テープのデジタル化や六〇周年での、保存資料(脚本、機関誌、写真等々)のデジタル化については、放研の歴史を物語る貴重な資料の散逸を防ぎ、デジタル化によって会員の手に届け易くなり活用が期待できるメリットが広がり、意義のある企画ではないかと思っています。大学のサークルの中では、時代の流れに逆らえず消滅したものも多いと聞いています。歴史を引き継ぎ、後輩に残すこともOB会の大切な使命ではないかと考えています。

会員の皆様からいろいろなご意見を賜りながら、微力ではありますが、残りの任期を全うしたいと考えている次第です。

放研現役による春の番組発表会を視聴して

(幹事長就任挨拶に代えて)

幹事長 長谷部 勲 (14期)



平成25年4月28日(日)午後から中央大学多摩キャンパスで放研現役による番組発表会が行われた。会場のCスクエア中ホールは放研OB、OG、他大学放研を含め、主催者の想定を上回る来場者であふれ、

補助イスまで持ちこむ大盛況であった。内容はラジオ2作品、ラジオドラマ5作品、ドラマ2作品、バラエティ3作品、実写アニメ1作品、PV2作品の計15作品であった。内容がどうもわかりにくいという世代の方に補足すると、ラジオはしゃべりが主なDJ、ラジオドラマは文字どおりのものだが、スクリーンに状況説明の文字や、いましゃべっている役名の文字、或いは登場人物(キャラクター)のイラストの映像が映し出される。ドラマはテレビドラマである。ラジオドラマに映像が、特に台詞をいうたびに、そのキャラクターのイラストが入り代わり立ち代わり映し出されるのは、登場人物のイラストによるイメージが脳に残り固定化されるため、最初は奇異にも感じたが、目をつぶって聞いているだけでは登場人物が多いため、20歳前後の出演者のよく似た声質とイントネーション(とくに女性)は、なかなか聞き分けにくいことが分かり、そのことへの対策かとも思え、慣れるにつれて次第にドラマの世界に入ることができた。とかく映像主体のドラマ、バラエティ、実写アニメ、PVにおいては作り手のてらいや模倣が目につくが、映像を補助的に使ったラジオドラマやラジオ(DJ)においては、いずれも意図するところを理解してもらいたいという作り手の工夫や、ひたむきな制作態度が感じ取れ、好印象をもった。

古い世代の失われた作品を若い人に聴いてもらうことはできないが、現役の若い感性にあふれた作品をラジオ世代が視聴することは可能であり、世代を超えた交流のためにも、その機会を是非実現したいと思った。

「青年像」関連番組CDの寄贈について

砂岡 茂明（12期）

青年像は、昭和36年（1961年）十一月十八日、駿河台校舎の中庭に建立され、除幕式が举行されました。これは、昭和33年に中央大学新聞創刊500号記念号で、学生歌の募集があり、一等入選した、岡本明久氏（当時法学部二年）が、獲得賞金一万円を寄付し賛同した学生等の寄附金で建立に漕ぎつけたものです。

平成23年（2011年）建立50周年を迎え、多摩キャンパスにて記念のセレモニーが開催されました。



現在の青年像



設立当時の青年像

昭和36年には、青年像をテーマにした、録音構成番組「谷間に咲いた二体の像」（二期・北上尊司氏他）が制作されました。青年像建立の経緯、制作した彫刻家の本郷新氏インタビュー、除幕式風景の実況など、貴重な音源で構成されています。五〇周年を記念して、当時のテープをOB会でデジタル化してCDにしたものを、岡本明久氏（映画監督）にお送りしたところ、大変喜ばれ、丁寧な礼状を戴きました。

創立60周年記念事業について

一、「中大放研60年の軌跡」

放研の活動や中央大学の動き、世相等について、纏めました。

二、「保存資料のデジタル化」

昭和二〇年代の放研創立時代からのドラマや録音構成の脚本等が現役の部室に数百点保存されていました。このまま放置すると散逸のおそれがあることと保存の利便性を考え、創立60周年の機会にデジタル化しました。

三、「保存番組テープのデジタル化」

昭和二〇年代の放研創立時代からのドラマや録音構成等の番組が現役の部室に数百点保存されていました。このまま放置すると散逸のおそれがあることと保存の利便性を考え、創立50周年の機会にデジタル化し、希望者に配布しました。しかし、このCDの存在を知らない会員も多いことから、再度、周知したものです。

四、「ホームページの作成」

(一) 「中大放研60年の軌跡」

(二) 「保存資料をデジタル化したもの」

(三) 「番組保存テープをデジタル化したもの」

(四) 周年行事や同期会等の保存画像等

(五) 各種連絡事項や幹事会模様、同期会模様等

(六) 中央大学、現役ホームページ、

各期のホームページや掲示板へのリンク

(七) その他

現役への記念品の贈呈

創立60周年記念事業の一環として、現役の活動を支援するための記念品として、金二〇万円を贈呈しました。

寄付金について

創立60周年記念事業を推進するため、寄付金の募集を行いました。結果は左記のとおりです。皆様のご協力により、目標を大幅に超えることができました。ありがとうございました。

【募金結果】 応募者数

九九名

募金額

九七万円（目標額六〇万円）

放送研究会OB会総会創立60周年記念式典 及び記念パーティ開催

佐久間 良平（6期）



2012年（平成24年）
9月8日（土）品川プリンスホテル・メインタワー12階「シルバー12」において来賓3名、OB（講師1名を含む）80名、現役29名、

計112名の出席で開催されました。
第一部のOB会総会は谷井健さん（17期）の司会で、事業報告、会計報告、会計監査報告、役員改選が滞りなく行われました。

第二部の記念式典は現役3年生の石黒瑞紀さんの司会で放送研究会委員長の井出阿祐子さんの挨拶、放送研究会会長の井上彰先生（法学部教授）の挨拶に続き、砂岡茂明放送研究会OB会会長から記念事業の報告及び記念品の贈呈が行われました。

記念講演は講師に14期の早河洋さん（テレビ朝日代表取締役社長）が「テレビ人生45年放研が入り口だった。」と題して行われました。

◎講演趣旨～入学したときの駿河台キャンパスの印象。放送研究会に入会の経緯。

ドラマの脚本はストーリーを考え、それに台詞をつけるものだと、ある人から聞いた。そして初めて書いたドラマが大放連のドラコンで脚本家の橋田寿賀子氏に褒められた。

卒業後、NET（日本教育テレビ）の木島則夫一



ニングショーのアルバイト。その後NET現在のテレビ朝日に入社。放送記者時代、戒厳令下での現地取材3か所経験①日航機

が日本赤軍にハイジャックされ、ダッカ空港に着陸し、日本政府が身代金を支払う事件を取材中に犯人から狙撃されたが乗ったタクシの運転手の機転で助かった。②韓国の朴大統領暗殺事件取材。韓国当局の検閲で映像の一部が黒塗りされたが、東京では黒塗り部をカットして放送した。③ポーランドで「連帯」弾圧、ワレサ議長軟禁を取材。

その後、夜の10時からの「ニュースステーション」を制作し、ギャラクシー賞を受賞した。社長就任後、主要民放の中で視聴率がトップになったこと等々。

（放送研究会14期の早河洋さんが東証一部上場の「テレビ朝日」の社長になりました。これは放研だけでなく、大学にとっても大々慶事であります。今回、放研創立60年 Anniversaryに講演をしていただきましたが、すばらしい講演でした。現役の皆さんにとって大きな刺激になったのではないかと思います。願わくば放研からテレビ朝日に採用され、早河さんに続く人材になつてほしいと思いました。）

講演会に続いて現役4年生の廣瀬淳さんの司会で記念パーティに移りました。パーティは放研OB会顧問の加賀美鐵雄さんの乾杯のあと、福原紀彦学友会会長（中央大学総長・学長）から祝辞がありました。放送研究会OB会に大学総長・学長が出席して祝辞を述べたのは初めての事です。

懇親パーティの中で放研現役制作による映像作品が10分間上映されました。

パーティの合い間にNHKラジオセンター勤務の47期横林良純さんの話に就職を控えた現役が熱心に聴いていたのが印象的でした。

予定時間がせまり、中締めを現役61期池田齊央さん（4年生）が行い、最後は恒例の「惜別の歌」の合唱で再会を約し、記念写真を撮影して散会しました。



中央大学放送研究会OB会第8回総会
中央大学放送研究会創立60周年記念式典・祝賀会







加賀美顧問による乾杯



放研井上会長のご挨拶



福原総長のご挨拶



全員で惜別の唄を斉唱



まだまだ若いです。



卒業以来の参加も



伝説のパーソナリティーと



よう！元気か

十三期―長島温泉への旅

柳田 美根子 (13期)

巨大な台風二号が直撃するかもしれない二〇一一年五月二十六・二十七日、東北大地震で自粛も考えましたが、私達の旅は名古屋から始まりました。飛行機で、新幹線で、ローカル線で八人がまず名古屋駅に集合し、チャーターした車で、トヨタテクノミュージアムへ向いました。入場料は六十五歳以上は無料なので、皆タダ！（でも少しでも若くみえる方は、証明する何かを必ずご持参下さい）一時間かけて、繊維館・自動車館をガイドさんの説明を受けながら見学し、未来車にも試乗し、次に名古屋城に向かいました。お城には何の興味のない私でしたが、中に入ると思わずいろいろな展示物などに目が行き、楽しいお散歩でしたが、金鯱もちゃんと写真に残して、高速道路を走って三十分後、今回の目的地長島温泉、本日の宿オリーブに到着しました。部屋割りをして、希望者五人は、ホテルからバスで二〜三分の所にある「湯あみの島」へ行きました。私は行きませんでしたので、「どうでした」と尋ねてみると、「一つ一つに趣のあるお風呂でした。」「一人で七つの湯を渡り歩き、出たり入ったりで忙しかった。」と言っていました。



全九名が揃って、カラオケ付きの部屋で、一分間の黙祷のあと、宴会が始まりました。食べきれない位沢山の料理、一人一人の近況を聞きながら、カラオケも忘れて、時間が過ぎていきました。今回の主な話題は「孫」で、写真を見せあったり、もうすぐおばあさんになる人もいて、まだ孫のいない私には、少し寂しい一時もありました。部屋に戻り、又一年の空間を埋めるかのように、飲んでしゃべり夜が更けていきました。

次の日は、どんよりと曇っていました。傘いらずで、なばなの里へ行きました。ベコニアやバラを眺め、咲きかけのあじさいと、数多くの花に囲まれた優雅なひと時を味わい、そこ

から帰途の名古屋に向かいました。名古屋駅の近くで、名古屋名物をいただき、解散となりました。楽しい時間は、あっという間に過ぎてしまいました。渡辺幹事、本当にご苦労様でした。

後日、写真が送られてきて、少し残ったお金に、幹事が自腹を切つて加え、東北大地震に義援金を送ったと報告を受けました。

この旅では、行きも帰りも、富士山のお顔が見られなかったのは、私にはとても残念でした。

放研の現在と合同発表会とは？

井出 阿裕子 (62期)



現在中央大学放送研究会では、年に2回10大学放送連盟主催の合同発表会（以下合発）に参加させて頂いています。しかし、OB・OGの方々の中には「合発とは何か？」「10大学放送連盟とは何か？」といったようにあまり知られていないと聞きます。

そこで、中大放研の活動の一環でもある合発についてもっと知って頂くために、この場を借りてご紹介したいと思います。

① 10大学放送連盟について

10大学放送連盟とは、
 青山学院大学放送研究部、慶應義塾大学放送研究会、上智大学プロデューズ研究会 B.P.R.O.、千葉大学放送研究会、中央大学放送研究会、放送集団オケアノス（一橋大学、東京女子大学のインカレサークル）、明治大学放送研究会、立教大学放送研究会、早稲田大学放送研究会の関連にある9団体10大学の放送サークルによって構成される映像サークル団体のことを指します。

② 合同発表会について

合同発表会（以下合発）とは、毎年6月と10月頃に立教大学にて開催されていた10大学放送連盟主催の大型番組発表会です。

他大学放送研究会との交流はもちろん、別々の団体同士で1つの発表会を運営することによって、互いの作品を上映しあうことによって今後の励みにしな

りすることができ、他大学の番組発表会に見に行くのとはまた違う趣があります。毎回テーマごとに作られる内装や企画にもこだわっており、隠れた人気を呼んでいるとも言われています。例としては、2011年度後期合発では「音」という統一テーマを設け、映像コンペティションという形で発表会を進行、最後にゲストの審査員と来場者による投票で優秀な作品を表彰しました。ちなみにこの時、中大放研の出品作品は2位という成績を修めました。

2013年度からは、前期は6月、後期は3月に行う予定となっておりますので、興味のある方はぜひご覧になってください。

10大学放送連盟HP → <http://gohatsu10univ.web.fc2.com/>

中大放研はもちろん、他団体の番組発表会情報も載っていますので、宜しければチェックしてみてください。

「高齢化社会の「いま」」

小田切 邦彦 (14期)

大学を卒業して40有余年、まもなく古稀を迎えようとしています。放研OBとの関わりでは毎年恒例の14期の皆さんとの旅行を楽しみにしています。高校の教師生活を満期卒業した至って平凡な人生を過ごした私には殊更人様にお話し出来るようなことはありませんが次第に加速度を増している高齢化社会への取り組みの一端を紹介したいと思います。

私は目下、地区の自治会活動(区長)に関わっています。自治会活動は行政の使い走りや結構多岐にわたっていますが中でも重点を置いているのが高齢者を対象とした生涯学習です。学習と言ってもその中身はいかにして高齢者を孤立化しないようにしようかと地域で支える活動です。社会福祉協議会を中心に全国的にも広がっている活動ですが、私の所では「生き生きふれ合いサロン」と称して毎月第3土曜日の午前中、公民館に集合して会員相互の親睦を深めています。65歳以上の方が対象ですが参加している会員の平均年齢は75歳位です。毎回約50名位の会員が集まります。運営は自治会役員と児童民生委員それにボランティアの協力員です。会員の三分の二は女性です。男性は現役時代の裨りなかなかな下ろせないよう参加者が少ない傾向です。月毎にイベントが変わり

ます。歌や踊りの芸術鑑賞・講師を招く講演会・手芸などの手作り教室・研修旅行・身体や頭を使ったゲーム等さまざまです。そして定番はお茶とおしゃべり、童謡や演歌の合唱です。時には私も若いころから始めたアコーディオン演奏でカラオケの手助けをします。これらのは活動は同じ地域に住んでいるという仲間意識を深め相互の絆を深めるのに大変役立っています。結果として有事に備える防災避難訓練にも相互扶助が発揮されます。「毎月このサロンが楽しみさ」という会員の声に励まされてスタッフも張り切っています。カラオケで良く歌われる「村の渡しの船頭さんは今年六十のおじいさん」ですが、昨今では六十はまだまだおじいさんの範疇ではないようです。でも、いつかは必ず迎えるおじいさん・おばあさんを如何に充実して生きるかだと思えます。このような地域活動に積極的に参加するのも一助と思えます。放研OB会の皆さまのご健勝を祈りつつ拙筆を置きます。

自然体で今、自分にできることを

堂前 綾子 (15期)

新潟県長岡市出身ですが、結婚で札幌在住四十四年。今やすっかり『札幌の女(ひと)』となりましたね！

自宅で幼児から高校生への寺子屋塾から始まり、故堂前 暁がその場所を活用して、家庭文庫の【三角山文庫(さんかくやまぶんこ)】を開設し、近隣の皆様に本の貸し出し、読み聞かせを始めたのがキッカケです。

「テレビの普及で子ども達の活字離れを案じてね。」現在、小学校などで朝の読み聞かせや読書の習慣で、【お子さん達の読書は定着し、日常の挨拶・行動での落ち着きの良さにはつきり現れていますね。】

普段、家庭で親御さんが新聞や本を読んでいる姿で、自然にお子さんも本とのかかわりが出てきますね。電子機器が出ようと、原点は活字・本ですよねえ。

札幌近郊を中心に長岡市や新潟県、お声のかかる場所に『大型紙芝居・手づくり布の絵本・講演etc』で全国飛び廻っていますが、私のこだわりは必ず【温泉、特に露天風呂】に行くこと。旅の大好きな私ですが、行ったついでにその土地を知る。皆様から私自身が楽しさを学んでいるのかしらね……。口癖は

「次という言葉はない。今日自分にできることをする。」集まりがあれば参加し、来年もできたら「あゝあ、良かった。これも健康だから…」と感謝ですね。

『ブログ』を書くことで日々の自分を見直せるしね。北海道では学長、北海道知事の【道民カレッジ】は産・官・学が連携して道内各市町村で行われている場所様々な学習ができる講座。

「学びたい」という意思を唯一の入学資格とする生涯学習の学園。その中の一つが【三角山文庫の寺子屋塾】と称して、今や大人の方々の講座を我が家・三角山文庫で開催しています。私は『キッカケづくり』をしているだけかな。

我が家から見上げる【三角山】の四季を感じ、居ながらにして別荘気分。自然体で充実した生活が願ですねえ。

救急車搭乗体験記

北島 宏幸 (17期)

人は、一生のうちに、果たして何回、救急車の世話になることがあるだろうか。多分、あったとしてもせいぜい一回、多くて二回、それぐらいのものではなからうか。

ところが私はこの二年余りの間に患者本人としてのみならず、患者の付添として、次ごと五回も搭乗する機会を与えられてしまったのである。當に、好むと好まざるとにかかわらず、致し方なく、であった。

最初の搭乗は、私自身が患者としての乗車であった。日曜日、朝、自宅で突然意識を失い救急車で病院へ搬送され、そのまま入院してしまったのであった。その間の状況は最初から最後まで、当然のことながら、意識不明で全然覚えてはいない。それが二年余り前のことであった。

次に乗ったのが、二か月ほど前、同居の義理の母が、旅行先で骨折し、病院に行かずにそのまま自宅にタクシーで帰宅してしまったのである。急遽、かかりつけの医者の指示で救急医者を呼び、病院へ送ってもらった。しかしその病院では検査をしたのみで病室に空きがないとの理由で、無情にも、帰されてしまったのである。(往復救急車)本人は非常に痛がるので(当然である)次の日、流石に気が引けたので、救急車ではなくて、介護タクシーを呼ぶべく電話をした。

以下、そのやりとり

わたし ▲病院は決まっておりますので、お願い出来ますか▼

相手 ▲起きて歩けますか▼

わたし ▲寝たきりで動けません▼

相手 ▲失礼ですが患者さん体重どれくらいありますか▼

わたし ▲六五キロと本人言っています▼

相手 ▲え？そんなに？▼

▲大変申し訳ありませんが、わたくしどもただ今、腰を傷めてまして担架を担ぐことができません。救急車を呼んで戴けな
しょうか。▼

わたし ▲・・・▼

仕方なく消防署に事情を話したところ、ころよく引き受けてくれ、救に來てもらえることになった。程なくしてやって来たのは救急車では真つ赤な消防自動車であったのでびっくりしてしまった。消防署員曰く、「車は今出払っているので取り敢えず緊急措置を施しにやって来ました。救は追っ付けやってくる。」とのこと。

皆さんはご存知でしょうか、東京都内の消防署内には救急車は殆どが1か常駐されていないことを。ですから、救急車が出払っているときは取り敢赤い消防自動車が来、その後、救急車が来るのです。

救急車に一旦患者を乗せ、それから、搬送先の病院を探す。大体一五分〇分位かかる、扱て、いざ出発。サイレンを盛大に鳴らしながら赤信号をして、突っ走って行く。

運転経験者ならお判りになる。そう、マサに、蜘蛛の子を散らすが如我が物顔で走るのである。救急車の通る道はから空きなのである。緊急性の時などは少なからず後ろめたい気にもなるというものである。更に、五に乘った時などは(入院中の病院で手術の為)同系列の病院が茨城に在る常磐高速を走った時のこと。サイレンと赤色灯で時速間違いなく一六〇キロ出ていると思う。生きた心地がしなかったとはこの事を指すのだとおもっど怖かった。自分でハンドルを握っていないので、全く制御出来ない状態で、イスビードで走られたのである。もう二度と救急車には乗るまい、と、固に誓ったのであります。

ホワイトボード

OBゴルフ部会・報告 (於、武蔵野ゴルフコース)

直近3回の成績は以下の通りです

第30回、2012.8.23

優勝、塩沢邦男(9期) 2位、及川信行(12期)

3位、若尾英樹(12期)

第31回、2012.11.22

優勝、坂正夫(2期) 2位、大悟法安路(18期)

3位、内山昭雄(7期)

第32回、2013.4.25

優勝、榛葉肇(4期)

2位、藤原尚武(8期) 河合昭次郎(11期)

※後期高齢世代が連続して優勝と云う怪挙?を成し遂げています。後に続く世代の一層の奮起が望まれると同時に年齢を重ねてもチャンピオンになれるスポーツの魅力に一人でも多くの参加者が増えますようお願いしております。

OBスキー部会・報告

平成25年3月12日から15日まで岩手・安比高原スキー場で行われました。阿部和章(11期)・伊東祐一郎(11期)及び高橋俊次(12期)の三名に準会員が加わり賑やかなスキー部会でした。

計報

二〇〇九年(平成二十一年)以降、次の方々が逝去されております。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

- 杉本 容子(7期) 2009年(平成21年7月)
- 清田 義雄(1期) 2009年(平成21年12月)
- 若井 徹也(10期) 2009年(平成21年12月)
- 石本 昌二(9期) 2010年(平成22年9月)
- 福原 一夫(10期) 2011年(平成23年6月)
- 佐立 一郎(10期) 2011年(平成23年3月)
- 井原 義夫(12期) 2011年(平成23年12月)
- 佐々木泰男(20期) 2012年(平成24年3月)
- 植田 征代(11期) 2013年(平成25年3月)

平成24(2012)年新役員構成

役職	期	氏名	備考
顧問		加賀美鐵雄	前放研会長
会長	12期	砂岡茂明	
副会長	14期	長谷部 勲	幹事長兼任
副会長	15期	斎藤 剛	
副会長	17期	北島宏幸	新任
副会長	17期	川口 稔	新任
会計監査人	14期	浅見一策	
会計監査人	17期	谷井 健	新任
幹事長	14期	長谷部 勲	新任
副幹事長	18期	大悟法安路	新任
副幹事長	18期	伴 信昭	新任
副幹事長	20期	松原 優	新任
会計	13期	佐藤猛志	
会計	12期	若尾英樹	新任
現役	62期	井出阿裕子	委員長
現役	63期	渋谷和之	副委員長
アカデミア部会長	8期	藤原尚武	
副部会長	11期	有松幹夫	
副部会長	14期	荒井藤樹	
ゴルフ部会長	11期	河合昭次郎	
副部会長	15期	齊藤 剛	
スキー部会長	12期	高橋俊次	

会計報告(平成22年4月~平成24年3月)

収入の部		支出の部	
会費	703,760	会場費	48,108
総会(第7回)剰余金	105,763	慶弔費	7,455
中大からの支援金	28,000	事務費	78,378
雑収入	840	機関誌・名簿・発送費	475,374
前期繰越金	509,877	次期繰越金	738,925
合計	1,348,240	合計	1,348,240

編集後記

2月の故納谷幸喜氏(元横綱大鵬関)に続き、5月に元プロ野球巨人の長嶋茂雄氏と松井秀喜氏に国民栄誉賞が贈られた。近年、乱発気味の国民栄誉賞の内容を云々する声がある中で、誰もが三氏の受賞を祝福したことは喜ばしいことであった。特に横綱大鵬関と長嶋氏は両氏がデビューした時期が中大放研誕生期に近く、放研60周年の歴史に重ね合わせる事ができる。両氏の目覚ましい活躍は放研草創期と、そのあとに在籍した時期のOB諸兄弟には、ご自身の活躍とだぶらせて記憶に刻み込まれていることと思う。両氏についてはご存知のとおり、

大鵬関は1956年入門、1960年入幕、1961年横綱、優勝回数32回を数え、大相撲に一時代を築き、1971年に引退

長嶋茂雄氏は1954年立大入学、1958年プロデビュー、1959年天覧試合でさよならホームランを放つなど、ミスタープロ野球とまで呼ばれ、1974年現役引退

また、松井秀喜氏も日米双方の野球で活躍し、放研が60年を迎えた昨年、惜しまれながら現役を引退したことは記憶に新しい。

三氏が光り輝いていた場面、場面に自分を置いてみて、その時、同じように自分も輝いていたことを思い起こし、来し方を振り返ってみている方もいるに違いない。

さて、本号はマイトーク編集に係って初めての号ですが、発行が遅れたことをお詫びします。読後感やマイトークへのご要望など、編集部にお寄せいただければ幸いです。(H)